

西尾市
学生議会

令和7年8月20日 午後2時から午後4時30分まで

西尾市役所 議場

議長／吉良中学校 相川こお

円滑な進行にご協力をお願いします。また、開会中は報道関係者が写真撮影のために議場内に入室しますので、ご承知おきください。

なお、議場内は外気を取り入れて温度調節をしています。換気効率を高めるため、開会後は扉を閉めて実施しますので、ご理解くださるようお願いいたします。

それでは開会までもうしばらくお待ちください。

議長／吉良中学校 相川こお

皆さん、こんにちは。本日、前半の議長職を務めさせていただく吉良中学校の相川こおです。よろしくお願いします。

ただいまから西尾市学生議会を開会します。

初めに、中村市長から挨拶があります。

市長挨拶

市長／中村 健

皆さん、こんにちは。西尾市長の中村 健です。

本日は学生議会にご参加いただき、ありがとうございます。

学生議員の皆さん、中学校3年生ですので、14歳か15歳だと思います。そうすると、選挙権がありません。民主主義国家においては、選挙というのが一番、その有権者の方が自分のまちづくりだとか、国のあり方に対する思いを投じる、託す場なのですけれども、それが無いということでもあります。

でも、皆さん方が西尾市に住んでいる中で、もっと西尾市がこうなったらいいなど、多分きつとたくさん持っているというふうに思います。選挙権はないかもしれないけれども、でも20年後とか30年後の西尾市のことを考えれば、皆さんのような若い意見をしっかりと聞いて、それを反映させていくということがすごく大事だというふうに思っています。

なので、今回の学生議会についても、相手が中学生だからということで、変にかわしたりだとか、いなしたりだとか、そういったことではなくて、真剣に意見を受け止めさせていただいて、こちらも真剣に答えさせていただきますので、どうかよろしく願いいたします。

今日は多分この部屋に入って、すごく緊張するなというふうに思っているというふうに思います。緊張しないでくださいというのは難しいかもしれないけれども、なるべく肩の力を抜いて、リラックスして、練習の成果を発揮して、堂々と発表してくれることを期待しております。

よろしくお願いします。

議長／吉良中学校 相川こお

これより学生議会の質問を行います。

質問通告者は福地中学校 石川昞理議員、平坂中学校 小林葉奈議員、にしお特別支援学校 小野内煌斗議員、西尾中学校 小倉光也議員、鶴城中学校 杉江莉子議員、一色中学校 岡田希将議員、佐久島しおさい学校 坂井千波乃議員、東部中学校 富田暖琉議

員、幡豆中学校 鈴木莉子議員、寺津中学校 木村あかり議員、私 吉良中学校、相川こお、以上の11名です。

質問の順番は、お手元に配布しました質問通告書一覧にある発言の順番のとおりです。順次発言を許可します。

最初の質問者、福地中学校、石川晁理議員。

1 番／福地中学校 石川晁理議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「地域とともにつくる学校」です。

西尾市が令和7年度市政方針に挙げる主な事業に、中学校の部活動指導員を平日にも導入。スポーツ協会や文化協会などと連携して、段階的な部活動の地域移行推進が掲げられています。

私は剣道部に所属しています。剣道部では、地域の方から指導を受けるほか、稽古会などで高校生から私の祖父母の世代の方まで、様々な年齢の方から指導を受けています。様々な世代の経験豊富な方からご指導いただくことで、上達が早くなり、多様な考えも知ることができるので、とても貴重な経験を積むことができていると感じています。

最近のニュースでは、教員の人数が不足している。地域で孤立してしまう高齢者がいる。地域住民のつながりが希薄化しているということをよく耳にしますが、剣道部のように地域の方々と学校教育で連携してはどうでしょうか。

地域と学校が連携するメリットは、3つあります。

1つ目として、生徒は学校教育の中では教わるできない、知識や文化的な感性などに触れることができます。

2つ目として、地域の方は、学校と地域コミュニティのつながりの中で活躍する機会ができ、生きがいや居場所づくりにもつながります。

3つ目として、地域ごとに特色が出て、市の活性化にもつながります。

以上のことを踏まえて質問します。

地域と学校の連携状況はどのようなのですか。

教育部次長／渡辺登志雄

地域と学校の連携には、石川議員がおっしゃったようなメリットがあると考えます。

現在の地域と学校の連携状況としまして、石川議員のおっしゃったメリットの1つ目、子どもたちが学校教育の中で教わるできない知識や文化的な感性に触れることとしましては、現在、中学校がキャリア教育の一環として行っている中学生の職場体験において、地域の多くの企業やお店などにご協力をいただいています。

次に、石川議員がおっしゃったメリットの2つ目、地域の方の生きがいや居場所づくりとしましては、現在、地域の多くの皆さんに図書館ボランティア、交通ボランティア、環境ボランティアなどの学校ボランティアとして、ご活躍いただいています。

また、石川議員がおっしゃったメリットの3つ目、地域ごとの特色が出て、活性化にもつながることとしましては、現在、西野町小学校の三河漫才や室場小学校のホテル保存会などでの活動をとおして、地域の活性化に寄与いただいています。

その他にも、おやじの会の活動や地域の老人を学校に招いて行う交流会、また地域のお祭りなどの行事へ児童生徒が参加することなどをおして、地域と学校が連携をしています。

1番／福地中学校 石川晁理議員

ありがとうございました。

再質問します。

今後、地域と学校が連携するような取組を、市が推進していくことはありますか。

教育部次長／渡辺登志雄

地域と学校が連携する先進的な事例としまして、一色南部小学校では、令和5年度からコミュニティスクールとして、校区の町内会長、PTA役員、ボランティア、校長などをメンバーとする学校運営協議会が、地域住民や保護者と連携、協働して学習支援や、学校の環境整備などの子どもの成長を支える活動を行っています。

教育委員会としましては、今後、他の小学校区においても、そのような活動が進められるよう啓発をしております。

1番／福地中学校 石川晁理議員

ありがとうございました。

続きまして2つ目の質問に移ります。

市政方針に挙げる主な事業の中学校の部活動指導員を平日にも導入。スポーツ協会や文化協会などと連携して、段階的な部活動の地域移行を推進の進捗状況はどうか。

教育部次長／渡辺登志雄

中学校の部活動の地域移行に関しましては、令和4年度から学校教育課が事務局となって、スポーツ振興課、観光文化振興課、校長会、スポーツ協会、文化協会の関係者による検討会議を行ってきました。

その検討会議において部活動指導員の導入を決定し、令和5年度から休日の運動部の部活動に導入。令和6年度からは休日の文化部の部活動にも導入。令和7年度からは、平日の運動部、文化部の部活動にも部活動指導員を導入しています。

現在、部活動指導員には48名が登録をしていますが、中学校の部活動の数は現在約160あるため、部活動指導員の数は十分とは言えない状況です。

また、現在、スポーツ協会、文化協会と連携して、子どもたちが運動文化に親しむ新たな機会の確保に向けて、準備を進めているところです。

1番／福地中学校 石川晁理議員

ありがとうございました。

再質問します。

指導者等が見つからなかった場合、スポーツをする機会がなくなることにつながりませんか。

交流共創部長／高須清和

スポーツをする機会は、スポーツ協会の教室や地域にあるスポーツチームへの参加など様々ありますが、身近なところで言いますと、総合型地域スポーツクラブが挙げられます。各地域の方々が年齢や体力、レベルにかかわらず、多様なスポーツや文化活動に親しみ、中学生や高校生が参加できる教室やサークルも数多くございます。

部活動の地域移行に向けて、指導者や活動、場所の確保など課題はございますが、これからも中学生の皆さんにとって、有意義な経験の機会を提供していくために、教育委員会やスポーツ協会など関係団体と力を合わせて、地域全体で取り組んでまいりたいと考えております。

1 番／福地中学校 石川昶理議員

ありがとうございました。

今回の質問を通して、今後より多くの場面で、地域と学校との関わりが増えていくと良いなと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／吉良中学校 相川こお

福地中学校、石川昶理議員の質問が終わりました。

次に2番目の質問者、平坂中学校、小林葉奈議員。

2 番／平坂中学校 小林葉奈議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「避難所運営訓練の実践について」です。

私たちの学校では年に数回、地震津波避難訓練をしています。しかし、本当に災害が起きたときに訓練したことが役立つのかというと、私は疑問に感じてしまいます。なぜなら、避難訓練は天候によって中止することがあったり、避難ルートがあらかじめ決まっていることがあったりするからです。

実際の災害は良い天気の日に起きるとは限らず、訓練した避難ルートが通れないということも起こり得ると思います。避難所生活についても想像することができません。

平坂地区は人口が年々増加する傾向にありますが、現在、地震や津波における避難所として指定されているのは、平坂地区は4カ所のみで、平坂中学校のアリーナも千人入るといっばいだからです。4カ所の避難所で何日間も共同生活できるとは、とても考えづらいです。

そのため、私は西尾市全体で、2つの防災訓練に取り組む必要があると思います。

1つ目は、避難所や避難場所への移動訓練です。実際に地震が起きたとき、パニックにならず、臨機応変に対応するためには、様々な状況を想定しながら、多くの市民が同時に避難をするという経験を積むことが大切だと思います。

2つ目は、避難所での生活訓練です。実際に段ボールの仕切りを作ってみたり、自分の家族のスペースに荷物を置いたりして、どのような状態になるのかを試してみます。避

難所生活について家庭で話し合うことはできますが、実際の避難所生活はなかなか体験できません。実際の訓練で問題点と課題が見え、意識も高まると思います。

そこで、質問と提案をします。

平坂地区の4カ所の避難所は、何人が何日間、避難することを想定していますか。

危機管理局長／本田正浩

平坂地区の人口は令和7年7月1日現在で、27,610人で、このうち避難所に避難する人は、地震や津波で倒壊、または損傷する建物の割合などを考慮しますと、6,000人程度と想定しています。

また、避難の日数に関しましては、毎日の生活や災害の状況によって避難日数も変動しますが、大規模地震の場合には、通常3日から1週間の避難を想定しております。

2番／平坂中学校 小林葉奈議員

ありがとうございました。

再質問します。

避難所が避難者でいっぱいになってしまった場合、避難所に入れない人はどこに避難すればよいのでしょうか。

危機管理局長／本田正浩

開設した避難所の収容人数を超えてしまう場合には、追加で開放する避難所として、総合体館や県立西尾高等学校など、8カ所の2次開設避難所に避難していただくことになります。

その他にも、必要に応じて災害協定を結んでいるホテルや旅館などの民間施設にも避難できるよう要請してまいります。

しかしながら、避難所での生活は苦痛を感じることも多いため、西尾市では避難所への避難よりも分散避難を推奨しております。

分散避難とは、避難所だけでなく、安全な親戚宅や知人宅への立ち退き避難、自宅で安全を確保できる場合の在宅避難など、避難所以外の場所へ避難する考え方です。この方針は、避難所の混乱を防ぎ、プライバシーの確保や感染症のリスクを減らすとともに、地域の安全性を守るために有効であると考えております。

2番／平坂中学校 小林葉奈議員

ありがとうございました。

続きまして、質問2に移ります。

市民が災害時に臨機応変な行動を取ることができるように、あらかじめ決められた訓練を行うのではなく、様々な悪条件にも対応できるように考える訓練を行いませんか。

危機管理局長／本田正浩

災害時に市民が臨機応変な行動を取れるような訓練については、非常に重要な観点であると認識しております。

しかし、まず命を守るための基本的な避難行動を身につけていただくことが大切です。市民の皆様が共通して必要とする防災の基本知識や、行動を習得するための訓練を実施することで、災害時の初動活動や共通の安全対策が、より確実に実行できるようになります。

臨機応変な行動については、基本的な訓練を繰り返し行い、避難行動が迷わず実行できるようになった後に、地域ごとの特性を段階的に取り入れた訓練で、市民1人1人が自ら考え、判断し、行動できる力を養っていくことができると考えております。

2番／平坂中学校 小林葉奈議員

ありがとうございました。

続きまして、質問3に移ります。

避難訓練で避難所に多くの人が集まれば、人でいっぱいになった避難所がどんな状況になるのか、リアルに体感することができると思います。

そこで、市の総合防災訓練で、避難所や避難場所への移動訓練や、避難所での生活訓練を中学校区単位で実施しませんか。

危機管理局长／本田正浩

西尾市では年に1回、西尾市総合防災訓練を実施しています。

避難所に指定している小学校をメイン会場として選定し、その地域の自主防災会や自衛隊、警察、消防に加え、災害協定を結んでいる企業などに協力をいただいで実施しております。

しかしながら、地域防災を考えますと、小学校区ごとに避難所を決めており、各々で災害時の防災行動について、実際の災害を想定してルールや計画を決めているため、小学校区ごとに計画に基づいて訓練を行うことが、地域にとって実効性が高く、きめ細やかな防災訓練になると考えており、中学校区単位での実施は考えておりません。

今年度は1月25日に西尾小学校をメイン会場として、愛知県と合同の訓練を実施する予定で、地域住民の方々にもご参加いただくようお願いしております。

なお、地域住民だけでなく、どなたでもご見学いただけるように準備しておりますので、小林議員もぜひご来場いただければと思います。

2番／平坂中学校 小林葉奈議員

ありがとうございました。

先月、カムチャツカ半島でマグニチュード8.8の地震があり、巨大地震に対する不安を感じています。また、過去に西尾市を襲った三河地震から今年で80年です。地震に対する不安はありますが、私たちが日頃からどのように備え、どのように行動するかで、災害の被害が大きく変わると感じました。

今日の学生議会をとおして、日頃より感じていた不安は少し和らぎましたが、一度に多くの人々が被災する巨大地震に対しては、何でも行政に頼るのではなく、自分たちにできることは自分たちでやるということが必要だと強く感じました。同じような不安や疑問を抱えている友達にも、今日学んだことを伝え、自分たちにできることは何か、改めて考えていきたいと思いました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／吉良中学校 相川こお

平坂中学校小林葉奈議員の質問が終わりました。

次に3番目の質問者、にしお特別支援学校中学部、小野内焯斗議員。

3番／にしお特別支援学校 小野内焯斗議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「私たちの進路」です。

私たちは総合的な学習の時間で職業について調べ、自分たちの将来について学んでいます。その学習をとおして、次のことを考えました。

私は立つことはできないので、車椅子を使っています。手の力も弱いので、腕を上を上げることは苦手ですが、将来、仕事をしたいと思っています。どういう仕事ができるのか、先輩たちの進路を参考にしようと思い、調べました。

肢体不自由の障害がある先輩たちは、軽作業を行う作業所に通うか、生活介護施設で介護を受けながら、余暇活動を行うことが多いことが分かりました。

私は就労継続支援B型という福祉サービスを使い、作業所で軽作業をしながら、イラストの勉強をしたいと思っています。西尾市には、軽作業を行う就労継続支援B型のサービスを利用できる作業所をしてもらえないかもしれないところは、4カ所でした。トイレの介助は必ずしてもらえないわけではなく、要相談ということでした。進路指導の先生に聞いてみましたが、トイレ介助が受けられる作業所は、どの市町も少ないということでした。私はとても驚き、大変残念に思いました。

働くことを考えている私たち中学部の生徒で、トイレ介助が必要な生徒は、6人中5人います。働きたいと思っている生徒の多くが、トイレ介助を必要としています。在宅で働くという方法もありますが、私は社会に出て多くの人と関わりながら働きたいのです。

私には障害がありますが、自分にできることを生かして働きたいと思っています。そのためには、もっと自分1人でできることを増やし、自立に向けて努力することが必要だと思っています。私も頑張るので、どうか私たちの働ける場所を増やしてください。

そこで質問します。

車椅子を利用する人の働ける場所を増やすための取組はされていますか。また、それはどのようなものですか。

健康福祉部次長／鈴木貴之

小野内議員が利用を希望されています就労継続支援B型事業所については、この2年で市内に4カ所も増えていますが、車椅子の方のトイレ介助が受けられる作業所自体が少ないという厳しい現状に対しては、小野内議員同様、とても残念なことと受け止めています。

そのため市としては、障害のある方が地域で安心して働けるように、次の2つの取組を行っていかうと考えました。

1つ目は、就労継続支援事業所の作業所で、トイレ介助などの支援ができるよう、各

事業所に対して話し合いを行い、できる限り必要な支援を届けていただけるようお願いしていきます。

2つ目は、車椅子の方を含めて、障害のある方が必要な支援を受けながら、安全安心に働くことのできる場所を、もっと拡大していきたいと思います。現在はハローワークと共同で、障害者就職面接会を毎年1回開催していますが、市内には企業がたくさんありますので、障害のある方と企業とのマッチングを積極的に働きかけて、障害のある方が、市内で働くことのできる場所を増やしていくことを目指していきます。

なお、これらの取組を実現するためには、事業所や企業、関係機関との対話が大切になります。市としては、障害のある方に対する理解や、配慮の必要性を丁寧に説明しながら、地域社会における障害のある方の様々な居場所を増やしていく努力を続けていきます。

3番／にしお特別支援学校 小野内焯斗議員

ありがとうございました。

私たちの働く場所の拡大のために、様々な取組をしていただいていることが分かりました。トイレ介助が受けられる事業所が増えることを願っています。

続きまして、2つ目の質問に移ります。

将来、私たちが社会に出て働くために、身につけておくべき力は何ですか。

健康福祉部次長／鈴木貴之

社会に出て働くときに身につけておく力というのは、1人1人の個性や特性が異なるのと同じで、人によって求められるものも異なると思いますが、一般的に考えるものを3つ挙げます。

1つ目は、自分でできることを少しずつ増やしていく力です。このことは学校でも教えてもらっているようですが、体の動きに不自由があっても、できることは何かを考えたり、少しずつ練習して自分でできることを増やしたりすることは、社会に出て活動の範囲が広がる時に役立つと思います。

2つ目は、周りの人とコミュニケーションを取る力です。仕事で一緒に働く人と話したり、分からないことを教えてもらったりするときに、障害がない方では気付きにくいことを伝えなくてはならない場面があると思います。でも、できないことイコール悪いこととは思わずに、自分の困っていることを相手に正直に伝えることにより、実は相手からの信頼度は高まります。自信を持って、自分の思いや気持ちを言葉で伝えることを、自身の強みとして捉え、今からでも練習をしておくことは大切だと思います。

3つ目は、働きたいという気持ちを持ち続ける力です。社会に出ていくと、自分の思い通りにいかない厳しい場面は少なくありません。そんなときに働きたいという気持ちを持って努力していくこと、これはこれで大変なことではありますが、初心を忘れずに臨むことで、難しい局面を打開することができる場合があります。

ところで小野内議員は、YouTuberになりたいという夢を持っているとお聞きしました。車椅子ユーザーだからこそできる強みとして、車椅子生活に必要な情報を発信することで、同じような立場の人の役に立ったり、勇気づけたりすることができますが、YouTuberになるためには見てよかった、ためになったと思える動画の企画を考え

る力や、スマホの使い方など、たくさんのかんことを身につけることも必要になります。

小野内議員が自分の夢に向かって考えたり行動することも、これからは市は全集中で応援します。今できることから少しずつ挑戦しながら、自分らしい動画を作って、夢を叶えてください。

3番／にしお特別支援学校 小野内煌斗議員

ありがとうございました。

答弁を聞き、とても勇気づけられました。社会に出て働きながら夢を叶えられるよう頑張っていきたいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／吉良中学校 相川こお

にしお特別支援学校中学部、小野内煌斗議員の質問が終わりました。

次に4番目の質問者、西尾中学校、小倉光也議員。

4番／西尾中学校 小倉光也議員

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは「ごみについてみんなで考え、協力し合うために」です。

僕が住んでいるのは室場地区です。室場地区は自然が豊かで、夏にはホテルが舞い、川や用水路、田んぼには生き物がたくさんいます。また、お盆には盆踊りなどの地域の行事が多くあり、小さいときからとても楽しみにしてきました。

僕はそんな室場地区が大好きですが、登下校中、自転車で移動するとき、たばこの吸い殻やビニール袋、プラ容器などのごみがとても目につきます。

僕はサッカーが大好きで、部活動ではサッカー部のキャプテンを務めています。サッカーワールドカップの試合後、日本人サポーターが自主的にごみ拾いをする姿は、日本の文化として海外で称賛されています。僕は、西尾市の町をもっときれいで住みやすい町にするために、自分でできることを考えていきたいと思います。

また、にしお未来創造ビジョンには、みんなの力で未来を魅力を創造という取組が掲げられています。行政には未来につながる活動を行って欲しいと思っています。

そこで、質問と提案をします。西尾市内では、町の清掃活動が定期的に行われていますか。

環境部長／齋藤武雄

西尾市内の道路や公園、水路、河川敷などにつきましては、市、県または国が管理者として維持管理を行っており、町内会やボランティア団体にも清掃活動の協力をいただきながら、町の美化に努めています。

市の取組について具体的に申し上げますと、市が管理する道路のうち、主要な幹線道路は年1回程度、路面清掃車によるごみ等の除去を行い、その他の道路は町内会から要望が出された場所について、草刈りや樹木の剪定などの維持管理を行っています。

また、広場の遊具を備えた都市公園は、年1回から6回程度、草刈りや樹木の剪定な

どを行っています。

春と秋にはごみの散乱防止について、市民の皆さんに理解を深めていただくために、ごみ散乱防止市民行動習慣を設け、町内会に公園や道路を中心とした清掃活動と呼び掛けています。

これ以外にも、地域の状況に応じて、町内会や市民団体などによるごみ拾いや、水路の草刈りなどの清掃活動が行われています。

とりわけ本市ではアダプトプログラム、町の美化活動をし隊の制度により、現在29団体が身近な公園や道路、公共施設周辺の美化活動に取り組んでいます。この活動は公園などの公共空間を、ボランティアグループが愛情と責任を持って清掃美化する取組であり、市は団体に対して、ごみ袋や清掃用具などを支給する支援を行っています。

このように、町の美化は管理者である行政だけではなく、町内会やボランティア団体の清掃活動などによる支援により成り立っています。関係する市民の皆様のおかげで、きれいな町が保てていることに、この場を借りてお礼を申し上げます。

小倉議員の西尾市の町をもっときれいで住みやすい街にしたいという思いは、非常に心強く、地域の力を高める素晴らしい考えであると思っております。地域やボランティアグループ、また学校などで環境美化活動が行われる際には、ぜひ積極的に参加をお願いします。

4番／西尾中学校 小倉光也議員

ありがとうございました。

それでは再質問します。僕は登下校で大きな道路を通りますが、そこではお弁当のプラ容器や、ペットボトルなどのポイ捨てが目立ちます。その場所では誰が清掃活動をしていますか。

環境部長／齋藤武雄

室場地区から西尾中学校まで、大きな道路、通学路に使用されているとのことですが、その道路は愛知県が管理する県道になっております。県に確認いたしましたところ、道路のごみの散乱や草などの状況を確認しながら、県が清掃を実施しているとのことでした。

しかしながら、実際にはそれだけではなく、道路を通行する地域の方々などが、善意でごみを拾っていただいていることも多くあり、市民の皆さんのおかげで、ごみ散乱の少ない環境が保たれていると考えております。

小倉議員がおっしゃるように、道路などでごみのポイ捨てを目にすることがございます。ポイ捨ては個人のマナーの問題であり、そうした個人の意識を改めることは簡単ではないと考えておりますが、市といたしましては、今後も意識改革に向けて啓発に努めてまいります。

小倉議員には、今後もポイ捨てをはじめとする環境問題に関心を持ち続けていただき、ぜひ周りの人にも環境に配慮した行動を呼びかけていただきますよう、お願い申し上げます。

4番／西尾中学校 小倉光也議員

ありがとうございました。

続きまして質問2に移ります。

西尾市ではたくさんのイベントが行われており、多くの人たちが楽しんでいます。人が集まればごみも出ます。僕は西尾祇園祭りに参加したとき、ごみ箱から溢れ出たごみを見てとても残念に思いました。

西尾祇園祭り等の大きなイベントでごみを拾うボランティアを募り、清掃活動を行いませんか。そうすることで、みんなが気持ちよく、さらに楽しめるイベントになるのではないのでしょうか。

交流共創部長／高須清和

西尾市では、歴史、文化、自然、スポーツなど、地域の特色や伝統文化を生かした様々なイベントを行っており、その中でも西尾祇園祭は西尾の夏を代表するイベントで、毎年、市内外から多くの方が足を運んでくださいます。

小倉議員が西尾祇園祭りで見た光景は、イベント開催時の大きな課題だと考えております。西尾祇園祭は、清掃する活動範囲が広く、作業規模も大きいいため、会場内の清掃は令和4年度から事業者をお願いをしております。

また、西尾祇園祭終了後は、祭り関係者で会場やその周辺地域の清掃を行っておりまして、例年、鶴城中学校生徒の皆さんがボランティアで参加してくれております。今年は鶴城中学校生徒の皆さんに加えまして、西尾中学校生徒の皆さん、西尾小学校の児童及び保護者の皆さんなど、80名の方が参加をしていただきました。当日は小倉議員にもご参加いただいたと聞いております。暑い中、本当にありがとうございました。

その他、9月開催の幡豆ストーンカップでは、競技終了後に参加者全員で会場内の清掃を行うビーチクリーンアクションイベントを実施しており、11月開催の吉良祭りでは、イベント運営や会場内の清掃ボランティアを募集するなど、主催者や参加者が協力し合って清掃活動に取り組んでおります。

ご提案いただいたイベントでごみを拾うボランティアを募り、清掃活動を行うことは町がきれいになるだけでなく、小倉議員がおっしゃるとおり、来場者にとっても気持ちが良い、楽しいイベントになりますので、多くの方のご協力を得ながら、ごみの削減に向けて取り組んでまいりたいと思います。この先、清掃ボランティア活動に参加する機会があれば、またぜひ参加していただきたいと思います。

4番／西尾中学校 小倉光也議員

ありがとうございました。

それでは再質問します。

西尾市では、1人1日当たりの家庭系ごみの排出量が、令和4年度まで、県内で一番多かったことを、広報にしおを見て知りました。

そこで、イベント時にリユース食器やマイボトル活動を導入し、ごみの量を減らす試みをして見たらどうでしょうか。これらの活動により、市民がいろいろな角度からごみ問題を考え、自分たちの手できれいな町、魅力的な町をつくっていくことにつながるのでは

ないのでしょうか。

交流共創部長／高須清和

交流共創部関係分についてご答弁を申し上げます。

現在、イベント時にキッチンカーなどの出展者や来場者に対し、リユース食器の利用や、マイボトル活動に関する呼び掛けは行っておりませんが、西尾祇園祭りでは、令和6年度から会場での大量のごみ、特にプラスチックごみを削減するために、ペットボトル商品の販売自粛を出店者に呼び掛けております。

その結果、祭り会場で大量に捨てられていたペットボトルが減少し、販売自粛の効果が出ていると感じております。

ご提案いただいたイベント時にリユース食器の利用やマイボトル活動を導入することは、ごみの減量を削減するとともに、市民がごみについて考える機会にもなり、ごみの減量化や環境保全意識の普及啓発につながると思います。

今後は出店者や来場者に活動を呼び掛けるなど、イベント主催者と一緒にごみの減量化に向けて、前向きに取り組んでまいりたいと思います。

環境部長／齋藤武雄

環境部関係分についてご答弁申し上げます。

本市は県内の他市と比較をいたしますと、家庭ごみの排出量が多い状況でございますので、イベントに限らず、マイボトルやマイカップ運動について、他の自治体の取組などの情報収集を行い、参考としてまいりたいと考えております。

また市では、西尾市クリーンセンターへのごみの搬入量を減らすために、近年では燃えるごみの袋の中に多く含まれております雑紙を、資源として分別してもらうことを呼び掛けております。いわゆる雑紙というのは、新聞や雑誌、段ボール、紙パック以外の紙のことでございます。西尾市の雑紙分別は、他の自治体と大きな違いがございます。例えば緩衝材の付いた封筒や、内側にアルミコートされた飲料パック、金属のついた紙ファイルなどをビニールやプラスチック、金属などが付いていても、そのまま紙袋などに入れて、町内の資源ステーション等に出すことができます。雑紙を資源として分別することで、家庭の燃えるごみの減量につながりますので、ぜひ、家族みんなで雑紙分別を進めてみてください。

それから、市では不要になったものを、次の人につなげるリユースの取組を進めております。その取組の一例を申し上げますと、西尾市とネット型リユース事業を行う民間企業との連携で、例えば家具や家電、衣類、スポーツ用品などまだ使えるものを、インターネット上の「おいくら」というサイトを活用して、リサイクルショップに売却できるというものでございます。売却したいもののジャンルを選択や状態の入力、また写真を添付することで、複数のリサイクルショップから買取価格が提示されます。買取りができなくて、見積もりが届かないケースもあるようでございますが、ぜひご家族にもご案内いただいて、ごみの削減のためのリユース活動に挑戦して見ていただきたいと思います。

4 番／西尾中学校 小倉光也議員

ありがとうございました。

本日は市長さんをはじめ、市役所の皆さんとお話しできる貴重な機会をいただき、ありがとうございました。今回の答弁を通して、ボランティア活動や様々なイベントなど、西尾市の皆さんが日々、いろいろな活動をしていることを知り、西尾市への愛の大きさを感ずることができました。

西中生は日々学校生活で礼、場、時という言葉を意識しています。この言葉を学校外でも意識し、より良い西尾市にするために、ボランティア活動に積極的に参加し、私たちが育ててくれる西尾市への感謝を伝えていきたいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／吉良中学校 相川こお

西尾中学校、小倉光也議員の質問が終わりました。

次に5番目の質問者、鶴城中学校、杉江莉子議員。

5 番／鶴城中学校 杉江莉子議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「地域で取り組む生涯スポーツ」です。

私は小学校1年生のときに柔道をはじめ、今は柔道部に所属し、仲間とともに日々切磋琢磨しています。今年度は県大会出場を目標に掲げ、鶴城体育館の道場で、顧問の先生や地域の方の指導のもと、厳しい練習に取り組んできました。その結果、県大会に出場し、3位に輝くことができました。鶴城中の柔道部は、恵まれた環境の中で練習できていると思います。

鶴城中学校には、私たちのように部活動でスポーツをする生徒がいる一方で、部活動以外でソフトテニスやバスケットボール、スケートボードなどのスポーツに取り組む生徒もいます。彼らや中学、高校を卒業した人は、どのような環境でスポーツをしているのでしょうか。

私たちの柔道部は、道場で先生や地域の先生の指導のもと、仲間と共に練習に励むことができます。学校の部活動に入っていない生徒や学校を卒業した人も、私たちのように指導を受けながらスポーツを行える環境があれば、スポーツを続けていきやすいのではないかと思います。

そこで提案と質問をします。

地域や小中学校の体育館や柔道場に冷暖房を設置したり、碧南市の碧南スケートボードパークのような施設を整備したりして、地域でスポーツに取り組む機運を高めていきませんか。

交流共創部長／高須清和

交流共創部関係分について、ご答弁申し上げます。

地域の屋内体育施設につきましては、総合体育館や中央体育館など、既に冷暖房空調設備が設置されている施設もございますが、設置されていない施設もございます。小中学

校体育館の空調設備の設置計画に合わせて、そちらについては進めてまいりたいと考えています。

スケートボード場につきましては、現在、国道23号を高架下スポーツ施設に設置されているため、新たな整備は今のところ考えておりませんが、令和5年に策定したスポーツ施設の整備計画であるスポーツまちづくりビジョン2040という計画がございますが、それに基づきまして、令和7年4月にはきららテニスコートを整備しまして、今後も屋内温水プール、陸上競技場、体育館、野球場といったスポーツ施設を、順次、整備する計画をしております。

これらの施設を新たに整備することで、地域でスポーツに取り組む機運を高めてまいりたいと考えています。

教育部次長／渡辺登志雄

教育委員会から、小学校、中学校、義務教育学校の体育館や武道場への冷暖房空調設備の設置計画についてご答弁申し上げます。

本市では、これまで市の財政事情から普通教室への空調設備の設置を最優先とし、現在は令和9年度を完了を目標として、特別教室や給食室などへの空調設備の設置を進めています。体育館や武道場への空調設備は、特別教室や給食室などへの設置が完了した後に着手できるよう計画をしていく予定ですので、もうしばらくお待ちください。

5番／鶴城中学校 杉江莉子議員

ありがとうございました。環境面の整備について、様々な取組を行ってくださっているとのことですので、再質問します。

市が主体的に地域で行われているスポーツを周知することにより、活動を盛り上げ、様々な世代の市民がスポーツを通して関わり合える地域づくりを進めませんか。

交流共創部長／高須清和

市としましては、地域で活動しているスポーツ協会や総合型地域スポーツクラブの活動内容について、市広報誌に掲載をして、取組の紹介や会員募集の促進を行っており、市公式LINEアカウントでも、同内容を配信しているところでございます。

また、各スポーツクラブにおいても、パンフレットの作成やホームページへの掲載など、情報の発信に努めているところでございます。

今後も各団体と情報共有を図り、地域で行われているスポーツ情報を提供することで、地域活動を盛り上げ、市民の健康増進やコミュニティの活性化、世代を超えた交流が促進されるよう、努めてまいりたいと考えております。

5番／鶴城中学校 杉江莉子議員

ありがとうございました。

続きまして質問2に移ります。

市が公認している地域スポーツクラブは何団体ありますか。またどのような世代の方が参加していますか。

交流共創部長／高須清和

市内に総合型地域スポーツクラブは、4団体でございます。各地域の方々が年齢や体力レベルにかかわらず、様々なスポーツや文化活動に親しんでみえます。

なお、鶴城中学校区には鶴城スポーツクラブがございまして、約860人の会員の方が参加してみえます。様々なスポーツの教室やサークルがありまして、中学生や高校生、大人が参加できる活動もたくさんありますので、部活動に入っていない生徒の皆さんや、学校を卒業した方たちにもご参加いただけたらと考えています。

5番／鶴城中学校 杉江莉子議員

ありがとうございました。

続きまして質問3に移ります。

にしお未来創造ビジョンでは、新たな活動の創造戦略の中で、スポーツを核とした市民の健康づくりを掲げています。どのようなことを実施していますか。

交流共創部長／高須清和

西尾市は令和3年にスポーツ都市宣言をし、スポーツを核としたまちづくり、健康づくりを推進をしております。

しかしながら、スポーツに関する市民アンケートによりますと、1年間にスポーツをしなかったと回答した方が、約4割を占めておりまして、こうした方々に週に一度はスポーツを実施していただくことが課題であるというふうに考えております。

このような中、市では、1人でも少人数でも気軽に運動を始められるきっかけを提供するため、スポーツ推進委員会によるニュースポーツ体験会や、触れ合いウォークを実施しております。また、親子から中高年まで、幅広い市民を対象としたスポーツ教室を開催するなど、多様な取組を行っております。

その他にも、西尾マラソンの開催を通じて市民がするスポーツに加え、見るスポーツや支えるスポーツに参加できる機会の充実にも取り組んでおるところでございます。

5番／鶴城中学校 杉江莉子議員

ありがとうございました。

西尾市はスポーツに関して、様々な取組を実施していることが分かりました。スポーツをする、見る、支えるなどの様々な形で関わる機会が増えていくと思うので、それに伴った環境の整備を進めていただきたいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／吉良中学校 相川こお

鶴城中学校、杉江莉子議員の質問が終わりました。

次に6番目の質問者、一色中学校、岡田希将議員。

6番／一色中学校 岡田希将議員

それでは、通告に従い、質問します。

僕のテーマは「子供が楽しめる地元になりたい」です。にしお未来創造ビジョンを見ました。プロジェクトのひとつ、いつまでも住み続けたいまちに、市民の生活をより良いものにし、住み続けられるようにするとあります。具体的には、高速大容量通信などのテクノロジーを、適切に地域社会に実装するなどが書かれています。確かに、通信環境の整備などで、生活が便利になることは大切だと思いますが、僕たち子どもにとっていつまでも住み続けたいまちのイメージとは違うのではないかと思いました。子どもにとっていつまでも住み続けたいまちとは、僕なりに考えた結果、住んでいて楽しいまちだと思います。

僕は地元である一色町を含む西尾市が、もっと子どもに優しくなれば良いと思いました。西尾市内の小中学生、高校生が、今よりももっと楽しいと思えるようなまちにしてほしいです。

そこで2つ提案します。

1つ目は、子どもが楽しめる施設を増やすことです。市内の子どもが誰でもどこからでも来やすく、子どもたちだけでも、買い物ができる商業施設が増えたらいいと思います。現在、西尾市内には、子どもたちが楽しめる施設が少ないように感じます。既存の施設だけでなく、子どもたちで遊べる施設が増えると、子どもにとって住んで楽しいまちになると考えます。

2つ目は、そのような施設にアクセスしやすい公共交通機関の整備です。名鉄電車や六万石くるりんバス、名鉄東部交通バスなどの既存の公共交通は、やはり場所や時間に制限が多いように感じます。事実、僕の地元の一色町では車を使った移動が圧倒的に多く、子どもたちだけの移動には制限があります。子どもたちだけでも利用可能な公共交通機関の整備が、施設の利用頻度を上げ、子どもたちにとっても住んでいて楽しいまちになると考えます。

そこで質問します。今までに子どもたちだけでも買い物ができるイオンモールやららぽーとのような大型商業施設を作る計画はありましたか。また、そのような施設を作る上で、障害になっているものがあるとすれば、どのようなことが障害になっていますか。

産業部長／大野修司

西尾市にイオンモールやららぽーとなどの大型商業施設ができると、市内外から多くの方が訪れまして、新たなにぎわいの創出につながり、町全体が今以上に活気づくと想像されます。

西尾市におきましても、実はこれまで大型ショッピングモールの進出について、相談を受けたことはあります。

具体的に言いますと、商圈、簡単に言うならば集客できる範囲、地域ですね。そういった地域を西尾市の西側、平坂矢田地域と碧南市にしたいという、そういった内容でした。結果は希望されるまとまった用地がなかったこと、先方の市場調査の結果、商圈規模が小さく、十分な収益の確保が難しいと判断されたため、進出には至りませんでした。

ただ、裏を返せば、大型商業施設の誘致には、進出企業にとって、その地域に多くの人が住んでいて、交通インフラが整備され、その上で十分な利益が見込めると判断できた

場合については、初めて進出の可能性が生じてまいります。

現在、西尾市では将来的な人口減少を重要な課題として捉え、定住者の維持増加を目指し、働く場の確保や雇用の創出を図るため、企業誘致や雇用支援などに努めております。人口が増加し、先ほど申し上げました商圈として成立するならば、大型商業施設の進出も可能性はゼロではないと思っています。

皆さんが西尾市に愛着と誇りを持って、将来、西尾市に住み続けたいと感じてもらえることが、大型商業施設の可能性につながると思います。市職員として、引き続き魅力的なまちづくりに取り組んでまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

6番／一色中学校 岡田希将議員

ありがとうございました。

大型商業施設を作るに当たり、いろいろな障害があることが分かりました。

続きまして質問2に移ります。子どもたちが遊べる施設に、その施設と地域を直結する子ども専用の交通手段を考えませんか。

市民部長／都築克也

魅力ある大型商業施設が出店された際、その施設へのアクセスできる移動手段を整備することで、周辺地域の住みやすさは高まるものと考えられます。

そこで、次の2つの実現のできそうな方法をご紹介しますと思います。

まず、1つ目ですけれども、施設を運営する事業者が、お客さんに来てもらうために、駅などの主要な拠点と施設の間を運行するシャトルバスを走らせる方法です。具体例としては、株式会社ラグーナテンボスが、ラグーナテンボスと蒲郡駅を結ぶバスを運行しています。

2つ目としまして、自治体や交通自動車のバス路線を、その施設の付近にバス停を設置する方法です。具体的には、安城市がららぽーと安城がオープンしたのに合わせまして、コミュニティバスの停留所を設置して、世代を問わずに多くの人々が利用できるようにしています。

交通手段を検討する際には、整備される施設の性質だとか、利用者の年齢層、見込まれる利用者数に応じまして、判断する必要がありますが、岡田議員がおっしゃられます子ども専用の移動手段を導入するかどうかという考えは、非常に興味深いことと思います。

しかしながら、実際には保護者と一緒に利用する機会が多いことに加えまして、子ども専用にした場合と、誰でも利用できるものにした場合の費用対効果を比較しますと、子ども専用とすることは運用の面だとか、金銭の面においても難しいと考えています。

6番／一色中学校 岡田希将議員

ありがとうございました。

それでは再質問させていただきます。既存の公共交通を時間や場所の制約がなく、子どもにも使いやすくすることはできますか。

市民部長／都築克也

鉄道やバスなどの公共交通は、需要と供給の観点から効率的に運行することが重要です。そのため、利用者が多い路線や時間帯は運行本数が増えますが、利用者が少ない路線や時間帯は、運行本数は少なくなります。

一方で、時間や場所の制限を受けない公共交通としては、タクシーがあります。子どものタクシー利用に対して、市が運賃の支援をすれば、子どもにとっては便利な交通手段になると考えます。

しかし、安く使えるタクシーとして、いつでも自由に移動できることで、今あります鉄道だとかバスの利用者が大きく減少し、路線の廃止につながるかもしれません。

現在、自動運転だとか、空飛ぶ車の実証実験が行われておいて、技術革新が大変進んでおります。将来、自動運転といった技術が一般に普及する社会が実現すれば、運行に必要な費用も考える必要はありますけれども、時間や場所を気にせずに、移動可能な状況ができるかもしれません。

現在できることとしては、第一に鉄道とバスを乗り継ぎしやすいダイヤとするなど、今ある交通手段の利便性を高めて、交通ネットワークの維持確保を進めていきます。

住みやすいまち、住み続けたいまちには、大人だけでなく子どもにとっても使いやすい交通ネットワークの確保が必要となりますので、引き続きその実現に努力してまいります。

6番／一色中学校 岡田希将議員

ありがとうございました。

今回の質問を通して、僕だけでは考えられない様々な課題があることが分かりました。これからもっと西尾市が活気付き、いつまでも住み続けたいと思う人が増えて欲しいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／吉良中学校 相川こお

一色中学校、岡田希将議員の質問が終わりました。

ここでしばらくの間、休憩します。午後3時20分から再開します。

休憩 午後3時5分

再開 午後3時20分

広報広聴課長／牧原理恵子

学生議会を再開するにあたり、傍聴される皆様をお願いいたします。

携帯電話等はマナーモードにするか、電源をお切りくださるようお願いいたします。

議長／平坂中学校 小林葉奈

皆さんこんにちは。私は後半の議長職を務めさせていただく平坂中学校の小林葉奈です。よろしく申し上げます。

それでは休憩前に引き続き、会議を開き、質問を続けます。

7番目の質問者、佐久島しおさい学校、坂井千波乃議員。

7番／佐久島しおさい学校 坂井千波乃議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「佐久島の竹問題について」です。

私は佐久島に移住し、佐久島しおさい学校に通っています。総合的な学習の時間には、島の竹の活用について考え、活動しています。活動する中で、島の森林では、今は昔と比べて、竹が増えていることを知りました。竹は繁殖力が強く、放置すればどんどん増えてしまっていますが、島民の高齢化も進み、竹林を十分に管理できていないのが現状です。このまま管理が不十分な状態が続けば、島の森林は荒れ、土砂災害の原因にもなってしまいます。

竹林の整備が進まない理由としては、人手不足に加え、山の土地の所有者がはっきりしない場合もあること、放置林の危険性や、伐採後の竹の活用法などの認知度の低さなどが挙げられます。

そこで市が中心となり、私たち佐久島しおさい学校の生徒、島民、ボランティアが協力をして、山道や竹が浸食している畑、災害時の避難経路を中心に、竹の伐採活動を行いますか。島や自然に興味のある人をボランティアとして募り、定期的に伐採活動を行うことができれば、竹の浸食を抑えることができ、島の景観を保つことができます。

また、島外へ広く広報活動を行うことで、島の美しい景観とそれを維持する必要性の両方を知っていただく機会にもなります。

なお、伐採した竹については、竹チップや竹マルチなどに加工すれば、島で持続的に活用することができ、その認知度も向上させたいです。

そこで質問します。質問1、これまで佐久島で、島民やボランティア、学生、生徒などが協力して、竹林を整備する活動などを行ったことがありますか。

交流共創部長／高須清和

坂井議員が放置竹林により森が破壊され、自然環境や人の社会生活にまで悪影響を与えることに気付き、このまま放置すると、竹害により土砂災害の原因となることを理解していることは、素晴らしいことだと思います。また、島の将来を担う若者がこのような意見を持っていることに対して、とても頼もしく感じております。

お尋ねの佐久島での竹林の整備活動についてでございますが、島を美しく作る会がボランティアの方たちと協力して、里山保全を目的とした竹林整備を、東地区の藤山散策道周辺で行っております。竹の生育に詳しい岡崎森林組合の方を講師にお招きし、竹の種類や見分け方などの基本知識や、放置竹林の問題点や竹林のなくし方など、竹林の問題の解決方法についてレクチャーを受けた後、使用する機材の取扱い方法についての説明を受け、竹の伐採を行っております。

昨年度は4回実施しておりまして、延べ25名の方が参加され、トータルで軽トラック4台分程度の竹を伐採し、竹炭に加工できるように枝を払い、長さをそろえて竹林から排出を行っております。

7番／佐久島しおさい学校 坂井千波乃議員

ありがとうございました。

続きまして質問2に移ります。

質問2、竹害や伐採後の竹の活用法にはどのようなものがあり、その認知度を上げるための対策はしていますか。また、佐久島の活動を市の他の地域へ広げませんか。

交流共創部長／高須清和

交流共創部関係分についてご答弁申し上げます。

伐採した竹の活用方法ですが、伐採した竹から作った竹炭は細かい破片の状態ですので、サツマイモの畑にすき込んで肥料として活用をしております。

また、島民のご協力により、各家庭で不要となった古い着物や座布団などを回収して小袋を作り、竹炭を入れて消臭袋とし、10月に常滑市で開催されたSDGs愛知エキスポの会場で配布しながら、竹の現状を来場者に伝えさせていただきました。

また、竹炭を材料として、書道で使う炭を作るワークショップを開催し、多くの方にご参加をいただいたところでございます。

一方、島民で組織する佐久竹会では、竹炭をお土産として活用できないかなどの検討も行っております。

これらの活動は、島を訪れたボランティアや島外でのイベントの際に、来場者に対して竹害などの現状も合わせて伝えていますが、引き続き周知活動を行ってまいりたいと考えております。

産業部長／大野修司

産業部関係分についてご答弁申し上げます。

西尾市内では、山を中心に竹が増えすぎてしまい、他の植物が育ちにくくなるなど、そういった問題が起きています。そこで、担当課となる農水振興課が中心となりまして、竹害対策に現在取り組んでおります。

その対策の1つとして、竹林整備の仕方を教えてくれる講師派遣事業といったものがあります。この事業につきましましては、竹林を持っている人が整備のやり方を知りたいとお願いすると、そのための講師が派遣されまして、竹林整備に使う機械の使い方や、竹についての知識を教えてもらえるというものになります。ちなみに、佐久島振興課が行っている竹林整備活動の講師につきましましては、この事業を活用しています。

昨年度は西尾市内で延べ20回の講習が行われましたが、その中には佐久島の講習も含まれておりました。この事業を進むことで竹林整備のやり方を知る人が増え、徐々にではありますが、整備活動が広がりつつあります。

今後、昨年までの活動も参考にするとともに、現在行っている広報やホームページでの周知のほかに、チラシを作成するなど、この活動を積極的に進めて、多くの市民の方が竹の問題に関心を持ってもらえるよう、しっかりと頑張ってまいりたいと思っております。

7番／佐久島しおさい学校 坂井千波乃議員

ありがとうございました。

私の知らない竹の活用法や活動があり、驚きました。その中でも竹炭を入れた消臭袋というものが印象的です。佐久島でも活用できそうなことがたくさんあったので、今後の総合的な学習に生かしていきたいです。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／平坂中学校 小林葉奈

佐久島しおさい中学校、坂井千波乃議員の質問が終わりました。

次に8番目の質問者、吉良中学校、相川こお議員。

8番／吉良中学校 相川こお議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「西尾市在住の外国人との共生」です。

最近、西尾市内でも外国人が増え、地域の多様性が広がっていると感じます。私の周りにも外国人の友達が増えていて、出会いが広がっているのはとてもいいことだと思っています。

その反面、それぞれの地区や町内などのルールが分からずにいる外国人や、言語が分からず、ルールが伝えられない地域住民が、お互いに快適に暮らすことができていないと感じています。

私の通う塾の近くの道路では、夜に何人かで集まって大きな音を出していることがあります。どうせ外国人だろうと決めつけて考える日本人の声を聞くこともあり、何かを変えていかなければいけないのではと考えています。

そこで、西尾市在住の外国人への偏見が少なくなるように、日本のルールやマナーを知ってもらい、お互いを理解し合うための機会があったらいいと思います。

そこで質問します。日本人から外国人のことで困っていると、相談を受けたことがありますか。受けたことがあれば、どのような相談が多いですか。また、どのように対応していますか。

市民部長／都築克也

日本人から外国人に対する相談としては、ごみの出し方が守られていない、回覧板を回してくれない、大きな声を出すといった騒音問題などが挙げられます。

このような相談が、例えば町内会からあった場合に、市役所の地域つながり課では、注意を促す文書を翻訳する支援などを行っています。翻訳はポルトガル語、ベトナム語、フィリピン語、インドネシア語など、全部で15の言語に対応しています。

また、外国人に日本のルールやマナーを知ってもらうため、ポルトガル語、ベトナム語、易しい日本語で作成した西尾市に住む外国人のための生活情報誌を毎月発行して、希望する町内会や学校へ配布しています。

なお、過去に外国人に対してアンケート調査を行ったところ、生活に必要な情報は、SNSで得ているという回答が最も多くありました。そこで、外国人が取り残されず、情報が得られるように、FacebookやYouTubeを情報発信ツールとして活用しています。

これからも様々な方法で市からの情報を発信し、日本人が感じる外国人に対する困り事が少しでもなくなるよう取り組んでいきます。

8番／吉良中学校 相川こお議員

ありがとうございました。

次に日本に来たばかりの外国人は、地震などの災害を経験したことがない人もいます。もし今後、巨大地震や津波が起きたときにパニックになってしまったり、言語が分からなくて、近隣住民や避難先でコミュニケーションが取れないため、必要な情報が得られず、不自由な生活を強いられてしまうかもしれません。

そこで質問2に移ります。西尾市に住んでいる日本人と、外国人で意見を言うなどの話をする機会を作りませんか。

市民部長／都築克也

答弁が少し長くなりますが、よろしくお願いします。

日本人と外国人が意見を話し合う機会は、多文化共生を進める上で非常に重要です。このような機会を設けることは、日本人市民が多様な価値観に触れる機会となり、誤解や偏見をなくし、相互理解を進めることにつながります。

西尾市では、日本人と外国人が互いの理解を深めるため、様々な多文化共生の取組を実施しています。例えば、毎年実施している外国籍住民会議というものがありますが、ここでは外国人の意見を市の施策に反映させるだけでなく、日本人が多様な価値観や文化の違いを学ぶ機会となっており、国籍に関係なく誰でも参加できます。相川議員にもぜひ参加していただきたいと思います。お待ちしております。

また、多文化共生を進めていく上で大きな課題となるのは、言葉の壁です。その壁を解消するため、日本人と外国人をつなぐ役割を果たすキーパーソンを増やすことや、多言語翻訳のツールを活用していきたいと考えています。

西尾市には、日本に長く住む外国人市民が多くみえて、その中には日本での生活を理解して、周りの人を助けたいと思う人もいます。例えば、町内会長や消防団員として、地域で活躍されている外国人もみえます。このように、地域と外国人の橋渡し役となる外国人リーダーなどを、キーパーソンと呼んでいます。

こうした事例を通して、外国人が地域の中で活躍できるということを、日本人の皆さんにも知ってもらい、活躍の場を増やしていきたいと考えています。

また、外国籍住民会議や国際ワークキャンプ、国際交流イベントなどを通じて、多文化共生の意識を持った日本人の皆さんも、大切なキーパーソンです。キーパーソンが存在し、活躍することで、日本人と外国人が互いに歩み寄りながら、地域課題を解決できると考えています。

加えて、多言語翻訳ツールとしては、西尾市公式LINEアカウントに多言語機能が追加されて、行政手続きやイベント情報など、市役所からのお知らせが外国人に分かりやすく伝わるようになりました。

さらには、市役所窓口で自動翻訳のリアルタイム文字表示システムを活用するといった、新たな取組も始めています。多言語翻訳ツールの中には、無料の翻訳アプリやメッセ

ージ翻訳機能など、市民の皆様も活用できるものがありますが、ツールを西尾市全体で活用できれば、日本人と外国人がもっと気軽に話ができると考えています。

西尾市としては、これらの取組を進めていきながら、日本人と外国人が今よりももっと歩み寄り、互いに認め合い、尊重し合う社会を目指していきます。

8番／吉良中学校 相川こお議員

ありがとうございました。

続きまして質問3に移ります。現在、西尾市在住の外国人への防災対策は、どのようなことをしていますか。多言語で書かれた防災が学べるパンフレットなどは配られていますか。

危機管理局长／本田正浩

外国人への防災対策については、スマートフォンの言語設定に応じた言語で表示される西尾市防災アプリを提供しており、外国人が自分の国の言葉で、ハザードマップや避難所の情報を確認できるようにしております。

また、避難所には日本語が分からない方と指差しで意思疎通ができるお知らせ絵カードや、コミュニケーション支援ボードを備えております。

さらに、外国人向けに易しい日本語で、災害時の食事について学ぶ災害クッキング講座も開催しております。

また先ほど答弁で触れておりましたが、8月1日より西尾市LINE公式アカウントを刷新し、外国人の方が利用しやすいように県内初の取組となる多言語機能を追加することになりました。それとともに、防災メニューを充実させて、海や川の状況を把握できるライブカメラや、避難所の開設状況などの項目を追加し、災害時に必要な情報を得られるようにしました。

次に、パンフレットについては、西尾市に引越してきた外国人の方に、多言語のハザードマップを配布しております。ハザードマップの裏面は、日頃の備え方や情報収集の方法、避難情報の意味などを記載しており、パンフレットとしての役割も果たしております。

8番／吉良中学校 相川こお議員

ありがとうございました。本日答弁を聞いて外国人に向けてだけでなく、日本人に向けても理解してもらえそうな活動をしていくことが大切だと思いました。

また、外国人の中でも、地域のために働いている人や、キーパーソンという活躍をする人がいることを知りました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／平坂中学校 小林葉奈

吉良中学校、相川こお議員の質問が終わりました。

次に9番目の質問者、東部中学校、富田暖琉議員。

9番／東部中学校 冨田暖琉議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「部活動の地域移行に向けての整備」です。

私はオーケストラ部に所属し、演奏会に向けて日々バイオリンの練習に励んでいます。仲間と息を合わせ、全員で曲を作り上げる部活動は、中学生の今だからこそできる最高の時間だと思います。

しかし、残念なことに、部活動の練習日や練習時間は年々少なくなっており、十分な練習時間がありません。それを補うために自宅で練習することもあります。周りの家や家族に迷惑を掛けないように、何かと気を使い、思い切って取り組むことができません。

また、私たちの部活動には弦楽器専門の先生がいません。そのため、自分たちでどのような練習をしたらよいか試行錯誤を重ねていますが、時間が足りません。他市の友達から部活動のない日は、地域のクラブに参加しているという話を聞きました。地域の指導員の先生が教えに来てくれている部活動もあり、部活動の時間が少なくなる一方で、地域への移行が進んでいるそうです。

その話を聞き、私は西尾市の状況はどうなっているのか興味を持ちました。調べてみると、西尾市では西尾チャレンジ未来塾やスポーツクラブ教室が開催されていることを知りました。西尾市にも地域移行が進みつつあることが分かりましたが、中学生の私にとって開催場所が遠く、私が求めている部活動の代わりになるような内容ではないと感じました。

東部中学校にも部活動によっては、地域の方が教えに来てくださっているところもありますが、全ての部活動ではありません。そこで、西尾市でも早急に地域移行が進むように、市が主体となって指導員と児童生徒をつなぎ、小学生や私たち中学生が参加しやすく、部活動の代わりになるような地域クラブや教室などの環境を整えてほしいです。

そこで質問します。今までに市民を対象として、部活動の指導員やスポーツクラブなどの設置に向けた指導者の募集をしたことはありますか。また、今後より一層、地域移行を進めるために、指導者を募集していく計画はありますか。

教育部次長／渡辺登志雄

教育委員会関係分についてご答弁申し上げます。部活動指導員は令和5年度から募集を始め、現在48名の方が9つの学校で指導をしてくださっており、指導員の中には後輩のためにと母校に戻り、指導をしてくださっている方もいます。

今後は文化部も含めて指導員の拡充に努めてまいります。中学生の皆さんも将来、ぜひ母校、地域のためにお力をお貸しくださるようお願いいたします。

交流共創部長／高須清和

交流共創部関係分についてご答弁申し上げます。一般社団法人西尾市スポーツ協会では、スポーツ指導者養成講座受講者や各競技団体上部組織が認めた、資格を有するスポーツ協会会員の皆様に、部活動指導員人材バンクへの登録をお願いをしております。現在、登録者は25名で、そのうち11名が部活動指導員として活躍をしております。

残念ながら、一般社団法人西尾市文化協会においては、現在のところ指導者を募集す

るなどの具体的な取組がない状況でございます。

今後、より一層、部活動の地域移行を進めるためには、地域内におけるスポーツや文化、芸術団体等の協力を得ながら、指導者の発掘、把握に努めまして、指導者の確保育成に取り組んでまいりたいと考えております。

9番／東部中学校 富田暖琉議員

ありがとうございました。

続きまして質問2に移ります。

今後、部活動の代わりになるように、既に開催している西尾チャレンジ未来塾や、スポーツクラブ教室の設置数を増やしていくことは考えていますか。

教育部長／菅沼律哉

教育委員会関係分についてご答弁申し上げます。

西尾チャレンジ未来塾は、生涯学習事業の1つとして、地域の多様な経験や技術を持つ方たちにご協力をいただき、小中学生の皆さんが興味のあることにチャレンジできるきっかけの場となっています。西尾チャレンジ未来塾の教室は、文化、芸能やスポーツの入門編として、初心者でも楽しめるものとしており、技能のレベルアップを目的としていないことから、富田議員が希望される部活動の代わりになるとは考えておりません。

しかしながら、西尾チャレンジ未来塾では、できるだけ小中学生の皆さんのニーズに沿った教室が開催できるようにしたいと考えていますので、新たに希望する文化芸能やスポーツがあったり、その指導者としてご協力いただける地域の人がいたら、教えていただきたいです。

交流共創部長／高須清和

交流共創部関係分についてご答弁申し上げます。

現在、部活動地域移行に向けては、一色一般社団法人西尾市スポーツ協会はじめ、一般社団法人西尾市文化協会など、各種団体と連携を図り、団体が持つ運営ノウハウや強みを生かし、中学校の部活動を支える体制を市全体で構築できるよう、教育委員会と一緒に検討しているところでございます。

部活動の代わりとなるように、スポーツクラブや各種教室の設置数を増やすことは、活動場所や指導者の確保の課題がありまして難しい状況でございますが、学校と地域、各種団体等が連携協力し、生徒の活動をしっかりとサポートできるよう、引き続き関係者間でより良い方策を検討してまいりたいと思います。

なお、部活動地域移行につきましては、国においても方針を模索している最中ですが、いずれの方針に至りましても、地域全体で力を合わせて取り組んでまいりたいと考えております。

9番／東部中学校 富田暖琉議員

ありがとうございました。

西尾チャレンジ未来塾が、入門としての役割を果たしていることを初めて知りました。

初心者向けの新しい教室の開催だけでなく、希望者がさらに学びを深められるように、中級、上級編の設置もぜひご検討いただきたいです。

また、部活動については、指導者確保に向けて動いてくださっていることを知り、部活動が続けられる環境が整っていくことに期待が持てました。将来は私も母校や地域の部活動を支える一員として貢献したいと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／平坂中学校 小林葉奈

東部中学校、富田暖琉議員の質問が終わりました。

次に10番目の質問者、幡豆中学校、鈴木莉子議員。

10番／幡豆中学校 鈴木莉子議員

それでは、通告に従い、質問します。

私のテーマは「帰ってきたい街にするために」です。

私の住む幡豆町は、海と山に囲まれた自然豊かなところです。西蒲線の存続が決まったことで、通学時の交通手段に心配することがなくなり、安心しています。

私は市外の学校に進学する可能性があります。また、私の他に市外の学校への進学を考えている同級生もいます。進学と同時に将来どこで就職し、生活するかを考えるようになりました。

西尾市には、ウナギやアサリなどの全国に誇れる特産物が多くあり、今までの総合学習を通じてその魅力を学んできました。しかし、自分が西尾市の産業に携わるイメージが持てませんでした。もし未来を担う人材が市外に流出することになれば、西尾の産業の発展や持続の危機ではないかと考えました。

実際に、にしお未来創造ビジョンによると、令和14年に総人口生産年齢人口が最大となり、その後は減少に転じると予測されています。少子高齢化による人口減少という課題を抱える町にとって、関係人口の増加を図ることは、地域の活性化につながると私は考えます。

そこで、にしお未来創造ビジョンにも記載のあるグリーンツーリズムやブルーツーリズムなどのカラフルツーリズム事業に加え、西尾市の魅力や強みを生かしたアグリマリンツーリズム事業を実施してみてもどうでしょうか。モデルコースを作り、農業や漁業体験だけでなく、観光産業として発展させることができれば、より魅力的な西尾市になるのではないのでしょうか。SNSを通じて西尾の観光産業を広げたり、宿泊地や子どもの国などの施設、道路などを整備したりすることで、複数の産業が成長すると思います。

私は将来、各地区の産業などが体験できるツアーを企画し、その魅力を発信する仕事に就きたいです。また、ガイドのようなこともしたいです。一度は市外に転出しても、ぜひ西尾で働きたいと私のように考える人が増えれば、西尾市出身者だけでなく、多くの人が仕事を求めて西尾市に定住するのではないかと考えました。

そこで質問します。アグリマリンツーリズム事業を取り入れることで、市の魅力が発信できると思いますが、市はどのように考えていますか。

交流共創部長／高須清和

ご提案いただきましたアグリマリンツーリズムは、農業体験と海洋体験を組み合わせた観光スタイルと推測をいたします。本市は海、山、川といった多様な自然環境に恵まれ、抹茶、うなぎ、えびせんべい、海産物、かきなど、豊富な特産品が魅力の町でございます。本市特有の地域資源を活用し、その魅力を観光コンテンツとして発信することは、「住んでよし、訪れてよし」の観光まちづくりに向けた有効な取組の1つであると考えます。

これまでの見るだけの観光から、今は体験や経験、学びなどを重視する観光へ変化をしております。それを受け、現在、市では西尾市観光協会と連携をし、一番茶茶摘み体験、いちご狩りやブルーベリー狩りなどの体験プログラムを取り入れたグリーンツーリズムをはじめ、珍しいトンボロ現象が見られる東幡豆海岸のトンボロ干潟や、佐久島の景観など、自然を生かしたブルーツーリズムにも取り組んでおります。

その他、吉良温泉や市内事業者と連携し、病気予防や心身のリフレッシュなどを目的に、温泉やウォーキング、西尾の抹茶を飲むなど、健康プログラムを提供するウェルネスツーリズムにも推進をしているところでございます。

西尾市観光協会や事業者などと連携をし、その地域ならではの体験プログラムやツアーを企画、提供することは、旅の目的地となれるチャンスでもあり、鈴木議員がおっしゃられるとおり、関係人口の増加にも期待が高まりますので、西尾の地域資源を最大限活用したアグリマリンツーリズムの実施に向けて、西尾市観光協会や観光事業者などの関係者と検討していきたいと思っております。

将来、西尾市の魅力を発信する仕事に就きたいと考えておられる鈴木議員と一緒に、また西尾市で一緒に仕事できることをお待ちしております。よろしくお願いいたします。

10番／幡豆中学校 鈴木莉子議員

ありがとうございました。今後の西尾市の発展のために、滞在型のプランなどもぜひ検討していただきたいです。

続きまして質問2に移ります。西尾市で多くの方が働いてもらうような取組として、何がありますか。

産業部長／大野修司

今後の西尾市の雇用の問題について、いろいろと調べえ考えていただきありがとうございます。私たちも総人口や生産年齢人口の減少は重要な課題であり、簡単に解決できる問題ではないと認識はしております。

そういった中で、現在、市内で働く人を確保するために、次の2つの取組をしております。

1つ目は、首都圏内に5年以上住んでいる人が、西尾市に移住してきた世帯などに対して、国や県とともに補助金を交付する取組でございます。この取組は制度が始まった令和元年度からこれまでの実績が残念ながら2件のみと少ないため、現状の仕組みでは効果が薄いと我々は分析しております。今後、市内企業で働きたい若者の就職活動にかかる費用を負担するなど、より現実に即した効果的な支援について、検討していかなければならないと考えております。

2つ目は、西尾市で働く魅力をPRするため、市内の企業が参加する就職フェアを実施する取組です。昨年度3回開催し、市内企業が96社参加し、就職を希望する大学生などが674人来場しました。こういった就職フェアについては、継続にやることが重要だと考えています。

今後も様々な取組を通じて、働く人に選んでもらえるような町を目指していきますので、中学生の皆さんも将来どういった職業に就きたいのか、西尾市にどういった会社があるのか、少しでも関心を持っていただければ、西尾市で働いてもらえるような、きっかけの1つになるのではないかと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

10番／幡豆中学校 鈴木莉子議員

ありがとうございました。西尾市で多くの人が働いてもらえるように、補助金の交付や就職フェアを行っていることが分かりました。

質問3に移ります。市外へ出た若者が地元に戻りたくなるように、短期間で仕事を体験できるアルバイトなどの取組を行ってはどうでしょうか。

産業部長／大野修司

若者が将来の働き方について考えるきっかけとなる魅力的な提案をしていただきましてありがとうございます。短期間で仕事を体験できる機会を作ることは、思っていた仕事や職場と違うというミスマッチを防ぐ効果があるだけでなく、事前に仕事内容や職場の雰囲気を感じることができ、いったん市外へ出た若者が西尾市に戻って働きたいと思えるきっかけの1つになる素晴らしいアイデアだと思います。

現在、西尾市では、似たような取組として、長時間勤務が困難な子育て世代の方などを対象に、パソコンなどを使った短時間勤務のショートタイムワークという取組を、市内企業と連携して行っています。様々な立場の方が、それぞれに合った働き方を選択できるようにすることは、働き方改革と言われる中、最も重要だと考えております。

今回の提案を参考に、中学生の皆さんが大人になって就職を考える時期が来たとき、やっぱり西尾で働きたいと思ってもらえるような、新たな働き方への取組を、市内企業や関係機関とともに、知恵を絞って検討していきたいと思っておりますので、今後ぜひ期待していただければと思います。

10番／幡豆中学校 鈴木莉子議員

ありがとうございました。西尾の産業を仕事として経験できるいい機会になると思うので、ぜひ実施してもらいたいです。

続きまして質問4に移ります。西三河農協が開催しているいちごスクール以外の取組や、何か考え等ありますか。

産業部長／大野修司

その他の取組として、新たにイチジク栽培を始めた方を対象としたイチジクスクールを実施しております。このスクールにも市外出身者も参加しておりまして、西尾市に定住して農業に取り組んでいる方が合計で14名いらっしゃり、そのうち2名の方が幡豆町で定

住し、農業を営んでおります。

さらに鈴木議員の望むような西尾市での定住促進や、農業、水産業の後継者確保には、大きな課題ではありますが、一次産業の収入の安定化と、魅力ある職業としての収益向上が重要になってきます。

引き続き国や県と協力し、一次産業の所得向上に向けた様々な施策や支援を推進してまいりたいと考えております。

10番／幡豆中学校 鈴木莉子議員

ありがとうございました。

西尾市でも様々な施策を行い、定住する人が増えるような取組を行っていることが分かりました。市内の自然を生かした農業や水産業だけでなく、製造業など、それぞれが高い技術力を持っている西尾市だからこそ、ここで働きたいと思ってくれる人が、今後もっと増えていくことを期待しています。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／平坂中学校 小林葉奈

幡豆中学校、鈴木莉子議員の質問が終わりました。

次に11番目の質問者、寺津中学校、木村あかり議員。

11番／寺津中学校 木村あかり議員

それでは通告に従い、質問します。

私のテーマは、「市民の充実した生活を目指して」です。私は西尾市が子どもも大人も充実した生活を送れるまちになってほしいと願っています。

そこで2つ提案します。1つ目は交通機関についてです。西尾市にはバスや電車などの移動手段はあるものの、バスは運行間隔が長く、1時間に1本程度しかありません。私には高校生の兄がおり、毎朝バスと電車を使って通学していますが、毎日のように運行本数が増えたらな、ダイヤが変わったらなと言っています。今年4月からダイヤが変わったため、乗客が多かったり、道路が混んでいたりすると、バスの到着が遅れてしまい、電車に乗り換えるときに走らないと間に合わないことがあるそうです。

現在、通勤通学の時間の運行は1時間に1本しかありません。この通勤通学の時間帯だけでも、運行本数を増やすことができれば、利用者の利便性が高まると思います。

令和7年度の市政方針に掲げる主な事業の中には、一色地区での相乗りタクシーの運行開始とありますが、中高生がタクシーを利用することは難しいです。車などの移動手段を持たない子どもや高齢者も、自由に移動できる環境をつくってほしいです。

2つ目は運動施設です。にしお未来創造ビジョンの新たな活動の創造戦略には、スポーツを核とした市民の健康づくりが掲げられています。私はマラソン大会の開催や、Vリーグの試合などのイベントで、スポーツを盛り上げることも大事だと思いますが、市民が運動したいときに、運動できる場所があることも大事だと思います。

現在、市内には市の管理する体育館が4つあり、グラウンドやテニスコートも複数ありますが、私の住んでいる寺津からは距離もあり、利用がしづらいです。学校でも中学校

の体育館やテニスコートが使えたらいいのにと声をよく聞きます。現状、学校の体育館は団体で利用登録した人のみが利用でき、テニスコートは利用できません。もし学校の施設が誰でも使えるようになれば、各中学校区に1カ所以上は運動できる場所があることになります。

そこで質問します。名鉄沿線から離れた地域の利便性を高めるため、交通機関の対策を考えませんか。

市民部長／都築克也

西尾市内には、名古屋鉄道をはじめ、名鉄東部交通バスやフレンドバス、六万石くるりんバス、タクシー、渡船といった公共交通機関がありますが、これらの公共交通を乗り継ぐことで、市内や市外に移動ができます。バスやタクシーはいずれも鉄道の駅を拠点に運行していて、地域内での買い物や通院といった日常的な移動のほかに、名鉄沿線から離れた地域から、鉄道駅への移動手段の1つとなっています。

また、西尾市では、バスのダイヤ、時刻表を、鉄道との乗り換えがスムーズにできるように工夫して、都線を除いた全ての公共交通機関で、manacaなどの交通系ICカードでの支払いができるなど、利用しやすい環境の整備に取り組んでいます。

木村議員のような学生さんをはじめ、車を運転できない公共交通を必要とする方たちが、安全に安心して移動できる環境の整備に今後も努めていきます。

11番／寺津中学校 木村あかり議員

ありがとうございました。

それでは再質問します。通勤通学時間のバスの運行本数を増やしませんか。

市民部長／都築克也

西尾市が運行する六万石くるりんバスは、現在、小型のバスとワンボックスの車両で運行していて、特に通勤通学での利用が多い路線は、小型バス路線のうち、平坂中畑線及び木村議員がお住まいの地域を運行する寺津矢田線と認識しています。

一般的には運行本数が増えるほど利用者の利便性は高まりますが、その一方でドライバーや車両の確保などが必要となって、より多くの費用がかかります。仮に寺津矢田線の通勤通学時間帯に、バスを1便増便した場合には、年間で約1,500万円の運行費用が必要となります。

なお、寺津矢田線の1便当たりの平均利用者数が約20人でありまして、増便したダイヤにも同等の利用があると想定した場合に、運賃収入は年間で約143万となりますが、差し引きしますと約1,357万円の運行費用がなお必要となっております。運行本数を増やしてほしいとのご要望でございますが、路線の利用状況等における費用対効果を踏まえると、現時点では増便は考えていません。

また、鉄道との乗り継ぎがスムーズにできるようなダイヤ時刻表を設定していますが、道路混雑などの状況を確認して適切な運行ダイヤに変更するなど、利用者の利便性確保に努めていきます。

利用者の皆さんからのご意見が改善につながることも多くあります。木村議員も今後、

気付いた点があれば、ぜひ意見を寄せていただきたいと思います。

11番／寺津中学校 木村あかり議員

ありがとうございました。

続きまして2つ目の質問に移ります。東京都の中央区や渋谷区では、学校の老朽化に伴う建替えに際して、地域住民が利用できる学校施設にするように計画しているそうです。西尾市で学校校舎を建て替えるときも、同様の対応を計画しませんか。

教育部次長／渡辺登志雄

今年度と来年度の2か年で建替えをする吉良中学校の3階建ての新校舎は、1階部分のうち、音楽室、技術室、学年ワークスペースを将来地域へ開放できるように、セキュリティ上、そのエリアをシャッターなどで分けできるように整備します。地域へ開放するエリアは、将来、中学校の部活動が地域移行した際に利用したり、生徒の学習の妨げにならないよう配慮した上、地域コミュニティなどで利用することを想定しています。

11番／寺津中学校 木村あかり議員

ありがとうございました。現在、建替えをしている吉良中学校では、地域住民も利用できるよう整備しているとのことですので、再質問します。

建替え予定のない学校も、学校施設の一部を市が管理して、地域住民が利用できるようにするという計画はありますか。

教育部次長／渡辺登志雄

教育委員会関係分についてご答弁申し上げます。

現在、建替え予定のない一部の学校においては、余裕教室を児童クラブとして利用しているほか、一色南部小学校では、高齢者が集うサロンや学校と地域の連携交流の場として利用したり、西野町小学校では、地域の講師の方との三河漫才の練習場として利用していますが、その他の学校においては余裕教室の確保が困難であったり、地域へ開放するエリアをセキュリティ上、分けすることが困難であることなどから、現時点においては建替えをする吉良中学校の新校舎のように、校舎内の一部を地域へ開放する計画はございません。

交流共創部長／高須清和

交流共創部関係分についてご答弁申し上げます。

現在、学校体育施設スポーツ開放事業を実施しておりまして、体育館など生徒等の利用がない夜間に限りまして、利用登録をした団体に対して開放している状況でございます。

今後においても学校の活動を最優先にしつつ、現在開放されていない施設や時間帯において、テニスコートなどの学校体育施設のスポーツ開放事業の拡大を検討してまいりたいと考えております。

なお、現在は安全上の理由から、利用登録をした団体を対象とさせていただいているところでございますが、木村議員の誰でも使えるようになればというご意見も踏まえまし

て、今後、学校体育施設のスポーツ開放事業の拡大を検討していく中で、利用方法の変更等についても検討してまいりたいと考えております。

11番／寺津中学校 木村あかり議員

ありがとうございました。費用の面でも安全の面など改善していく上で、課題となるものがたくさんあることが分かりました。ただ、学校体育施設のスポーツ開放事業の拡大を検討していただけるとのことですので、誰もが安全に利用できる施設が増えることを期待しています。

また、今回、学生議会に参加したことで、どうすればよりよい西尾市につながるのかを考える機会になり、とてもいい経験になりました。今回テーマにした西尾市の充実した生活を目指して、につながるような行動ができるように、普段の生活から意識して周りを見ていきたいなと思いました。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。

議長／平坂中学校 小林葉奈

寺津中学校、木村あかり議員の質問が終わりました。

以上で本日の日程は、全て終了しました。

これをもちまして、西尾市学生議会を閉会します。

広報広聴課長／牧原理恵子

皆さん、ありがとうございました。また、長時間にわたりお疲れさまでした。

それでは、ここで教育長から講評があります。

教育長／稲垣 寿

11名の中学生議員の皆さん、ただいまは堂々たる立派な質問を本当にありがとうございました。各学校の代表として、仕事を見事に果たされたというふうに思います。この本物の議場で、市長さんはじめ、西尾市の幹部の方たちに向かって自分の考えを発表することができて、緊張もあったと思いますが、充実感も皆さん得られたのではないかとこのように思います。

皆さんは、この市議会のテレビ中継を見たことがありますか。間もなく9月の議会が始まりますが、そこでも今日、皆さんがしてくれたように、市民の代表である市議会議員の方たちが、理事者というのはこちら側に座っている私たちですが、に対して、様々な質問をして、西尾市民が幸せに暮らしていくために、どうしていったらよいかを一生懸命話し合っています。西尾市を豊かにし、住みよいまちにするために、産業振興や福祉、あるいは環境問題から災害対策など、ありとあらゆる課題を洗い出して、その解決に向けた協議をしているわけであります。言い換えれば、議会の仕事というのは、西尾市の未来を、未来そのものをつくっていくことになりますから、極めて重い責任を持っているわけであります。この議場がこんなふうに変な重厚な雰囲気になっているのは、そんな理由からであります。

そして、市長や市議会議員が選挙で選ばれるのも、西尾市の未来を決める重大な仕事

を任せられる、そういう信頼できる人を西尾市民全体で選ぶためなのであります。

本日、皆さんは各学校の代表として一生懸命、西尾市のことを考えて質問や提案をしてくださいました。その思いに応えるために、理事者側の答弁も、中学生だからという手加減は一切なく、真剣に本物の議会と同様に検討し、回答させていただきました。

実際、過去には、皆さん中学生の提言が西尾市が進める事業に反映したり、あるいは関連企業のアイデアとして採用されたものもあります。ですから、皆さんが本日、受け取った回答は、掛け値なしの本物ということになります。

間もなく2学期が始まり、10月には後期生徒会もスタートしていくことと思います。3年生の皆さんには、今回の経験をもとに、学校内や身の回りの様々な問題に気づき、それを解決するための方法を考え、仲間とともに実践していく姿勢を、ぜひ下級生に伝えていってほしいと思っています。そして、将来、西尾市の未来、日本の未来を担っていく人になってください。

11人の中学生議員の皆さんに、大きな期待と今後の活躍を願って指導講評といたします。

本日は各自重責を果たされ、誠にご苦労様でした。

広報広聴課長／牧原理恵子

最後に、中村市長からお礼の挨拶を申し上げます。

市長／中村 健

11人の学生議員の皆さん、お疲れ様でした。どうですか。ちょっとほっとしたような感じですか。どの学生議員の皆さんも、凛とした姿で堂々と質問ですとか提案をしてきて、非常にうれしく思います。

以下、順番に簡単に僕なりのコメントをさせていただきます。

まず、トップバッターの福地中学校、石川暁理議員。地域とともに作る学校ということで、部活動の地域移行について触れてくださいました。一番大事なことは、僕らはその子どもたちを第一に考えないといけないと思っていますので、確かに国の方針で地域に移行していこうみたいな考えはありますけれども、子どもたちがスポーツをする、あるいは文化活動をする機会がなくなってしまうというのが一番良くないことなので、そこはしっかりと受け手の側のその受け皿の整備を考えながら、急いでやるというよりは、慎重にことを進めながらやっていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

続いて2番目が平坂中学校の小林葉奈議員。避難所運営訓練の実践についてということで、訓練が訓練のための訓練になってしまうとよくなくて、何のために訓練をしているのかということを見ると、大きな災害が起こったときに、適切な行動をするために訓練をやるわけですけれども、その訓練を毎年やっていると、いつの間にか訓練をこなすことが目的みたいになってしまうところが、正直あるというふうに思います。だから、すごくいい問題提起をしてくれたと思います。なかなかそのレベルの高い訓練を地域全体でやるというのは難しいかもしれませんが、1人1人がそういう意識を持って、ただこなすための訓練ではなくて、実際の災害時にどうなるのかなというところの想像力をしっか

り働かせながらやるのが大事なので、そのための啓発活動は、しっかりとやっていきたいというふうに思っています。ありがとうございました。

3 番目、にしお特別支援学校の小野内焯斗議員。私たちの進路についてということでありまして、障害というものがハンデになってはいけないというふうに思うのですよね。今、そのために僕はその形のある支援も当然、大事なのですが、その障害のあるなしとかにかかわらず、心のバリアフリーというのをやっていくのが、すごく大事だというふうに思っています。そのためには、例えば障害がある人がどういうところに困っているのかなとか、苦労しているのかなということを察したりとか、それが分かっているのが一番いいのですが、実は分からないことも多分あって、残念ながら。そういうときに、気軽に意見を言い合えるという関係を築けることが、多分、一番大事だというふうに思っています。まだまだそういった社会には、十分、実現できていないかもしれませんが、しっかりとそういった障害の有無にかかわらず、誰でもが暮らしやすいまちづくりを進めていきたいと思ひますし、小野内議員についてはY o u T u b e rになりたいということなので、ぜひとも活躍して有名になることを期待をしております。ありがとうございました。

4 番目、西尾中学校の小倉光也議員。ごみについてみんなで考え、協力し合うためにということで、ごみ問題というのは、非常に身近なテーマでありまして、実はごみの処理に年間どれぐらいお金を使っているかということ、多分聞いてびっくりするんですけど、大体20億円使っているんですよ、年間で。だから、市民サービスの中で、一番、恐らくお金を使っているのかなと思います。西尾市が家庭ゴミの排出量が一番愛知県内で多いよということは何年も前から啓発をしていく中で、少しずつごみも減ってきているというふうに思ひます。これも市民の皆さんの、当然おかげなのですけれども、それ以外にもイベントのこともいろいろ触れてくれました。イベントというと、しっかりと盛り上がって、楽しかったことが大事だみたいになってしまうのだけれども、イベントの後ってごみがどうしても残ってしまって、そういったごみをボランティアで片付けてくれている人たちがいるというのは、絶対に忘れてはいけないことだというふうに思ひますし、そこに参加してくれたということで、非常にうれしく思っているんで、これからも環境に意識をしっかりと持って頑張っしてほしいなと思ひます。ありがとうございました。

5 番目、鶴城中学校の杉江莉子議員。地域で取り組む生涯スポーツということでありまして、まず最初に学校の体育館のエアコンについては、答弁でもお話したのですが、今は特別教室をやっているんで、どうしてもその後になってしまうのですが、ただ、学校の体育館、今、すごく夏場は暑いではないですか。なかなか体育の授業もできない中で、何とか空調をつけてよという話はすごく聞いているので、なるべく遅れることがないように、そこはしっかりと対応していきたいというふうに思ひますので、よろしくお願ひします。あとは地域と連携をしながらスポーツ環境を整備していくということは、すごく大事であって、地域の協力をいただきながら、そういった環境整備にも努めていきますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

6 番目、一色中学校の岡田希将議員。子供が楽しめる地元にしたいということでありまして、世の中のいろいろな仕組みとかを決めるのは、大体、大人が決めるではないですか。権限を持っているのは大人でありまして、大人も別に自分勝手に大人のことだけ考え

ているわけでは多分なくて、こういったことをやってくれた方が、子どもたちが喜ぶのではないかなと思いつつやっていることもいっぱいあるのですけれども、でも、子どもの立場からすると、いやいや、別にそれ望んでいないということも多分いろいろあると思うのですよね。そうすると、子どもたちの意見を聞いて、子どもたちが何を求めている、何を期待しているかっていうのを、しっかりと把握した上でやっていくということが大事であって、そのための学生議会でもあるのですけれども、そういった中で、楽しめるような地元にしたというのには、もっともだというふうに思っています。ただ、そういったわくわくするような楽しめるまちにするためには、ある一定の費用がかかってしまうので、なかなか全部が全部できなかつたりとか、あとは市役所というか、行政という人間だけがやるのではなくて、企業とかの力も借りないといけないので、そういった楽しいまちにできるように、いろいろな人の力を借りながらやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。

7番目、佐久島しおさい学校の坂井千波乃議員。佐久島の竹問題についてということで、実はあまり問題意識を持っている人が多くはないのですが、この竹の竹林の問題は結構、最近非常に厄介な問題になってきてしまっていて、伐採とかをやっている地域の広さに比べて、その竹林が伸びていくスピードが速いので、結構大きな社会的な問題になっています。まだなかなかその有効な手立てが打てていないのが正直なところでありまして、行政だけの土地ではなくて、民間のその私の土地なんかでも、いっぱい竹林に生えてしまっているので、社会的な課題として、どう認識をして伐採とか駆除をやっていく体制をどう整えていくのが大事なところ、そこはこれからどうすればいいかというのをしっかりと考えていきます。それと、今回、竹を伐採するだけではなくて、その後の使い道についても触れてくれたというのが、非常に良かったかなというふうに思います。皆さんの世代だと、SDGsという考え方が結構、当たり前根付いているのかなと思うので、そういった意味でも、非常にSDGsの精神に根差した考え方なのかなというふうに思っていますので、佐久島の中でそういった取組というか、そういった輪を広げてほしいなというふうに思っていますので、お願ひします。ありがとうございました。

8番目、吉良中学校の相川こお議員。西尾市在住の外国人との共生ということで、これ今、大人の問題というか大人の世界では、大人の世界でとってはいけない。政治の世界では、結構大きな課題として認識をされていて、かたや外国人の人と仲良くやっていくために、どうすべきか考えるのが大事だよなというグループと、もう外国人はけしからんから追い出した方がいいというグループがいて、僕は当然、前者だというふうに思っています。今、西尾市でいうと、人口の7%ぐらいが外国人、外国籍住民の方であって、これからどんどん増えていくというふうに思っています。全員が全員ルールを守ってくれないのかもしれないけれども、多くのトラブルというのは、悪気があって、悪意があつてやっているとよりは、そういったルールについて、しっかりと知らないから、文化的な違いとかで、多分トラブルになってしまっているということが少なくて、そのためにはやはり知ってもらふということがすごく大事だというふうに思っています。知ってもらふためには、お互いのコミュニケーションを取ることも大事だし、あとは、例えば、市から発信する情報をどう伝えるかですよね。発信することが大事ではなくて、どう伝わるかということまで考えていくことが大事です。今回、LINEが多言語対応になったのは、1つ大

きなツールとして期待したいところでありまして、外国人の方々に隅々まで全部、全員ルールを分かっていたのは難しいかもしれないけれども、少しでもそれが効果が上がるようにというのは、行政もやっていくのですけれども、やはり市民の皆さん1人1人がそういった意識を持ってやってもらわないと、なかなか市全体には広がっていかないというふうに思いますので、その外国人って嫌だとか、そうやって思うのではなくて、外国人の方ともどうすれば仲良くできるかなという視点の中で、皆さん力を貸してほしいというふうに思います。ありがとうございました。

9番目、東部中学校の富田暖琉議員。部活動の地域移行に向けての準備ということで、地域移行、今回2件ぐらいあったので、非常に皆さんにとって関心が高いテーマなのかなというふうに思いました。チャレンジ未来塾とかの話もあったのですけれども、一番大事なことは、さっきも申し上げたように、皆さんが文化活動だとかスポーツをする場というか、機会をしっかりと作ることだというふうに思います。それが部活なのか違う場なのかというのは、ケースバイケースになってしまうかもしれませんが、今、その部活のあり方が大きく変わっていく中で、正直メリットとデメリットと両方出てくるというふうに思います。なので、100%を満足するような、そういった場が作れないかもしれないけれども、でも全くそういった活動をする場がなくなってしまうというのは、やはり絶対によくないですし、そこは大人の責任として、しっかりと進めていきたいというふうに思いますので、よろしくをお願いします。ありがとうございました。

10番目、幡豆中学校の鈴木莉子議員。帰って来たい街にするためにということで、帰って来たいとか、西尾市で働きたいと思ってもらえるかどうかというのが、多分これからの西尾市を考えていく上で、一番大きな一番重要な課題になってくるというふうに思います。そのためには、企業さんとかにPRをしてもらって知ってもらおうとか、あるいはこういった産業がありますよということを知ってもらおうということは、当然、大事なんですけども、それだけではなくて、やはり西尾市で生まれ育った皆さんに、西尾市が好きだとか、西尾市に貢献したいな、大人になったら西尾市の役に立ちたいなと思ってもらえることが、多分、一番大事であって、そのためにはやはり西尾市の魅力とかというのを、しっかりと伝わるような活動を、市民の皆さんにもしていきたいというふうに思いますし、学校教育の中でもそれやっているといるのですけれども、これまで以上にそういった西尾市で生まれた皆さんを大切にしながら、そういった子どもたちが大人になっても西尾市に残るとか、一回、外に出たかもしれないけれども、また西尾市に戻ってくるような、それが多分、西尾市が発展していく大きな鍵になりますので、そこは知恵を絞っていきたいというふうに思います。よろしくをお願いします。ありがとうございました。

最後11番目、寺津中学校の木村あかり議員。市民の充実した生活を目指してということで、公共交通とスポーツについて触れてくれました。今回、スポーツについて触れてくれた学生議員の皆さんが多いのかなというふうに思います。西尾市では令和3年度にスポーツ都市宣言というものをしまして、スポーツを力を入れていくことによって、西尾市を盛り上げていこうという、そういった宣言になります。スポーツ施設を作ることが正直、お金の無駄遣いじゃないかという人もいるのですけれども、僕としては、スポーツって、人生とか生活の中で大きなウエイトを占めている人というのは少なくないというふうに思うので、確かにお金のやりくりは苦勞するかもしれないけれども、しっかりとスポーツ環

境を整備していきたいというふうに思っています。あとは、その新しく作ることだけ考えるのではなくて、今ある施設をどう有効活用するのかというのは、すごく大事な視点で、木村議員が言ってくれたのは、専門用語でファシリティマネジメントと言うんですけども、これはすごく大事な考え方であって、この施設はこれだけしか使えないという利用用途を限定するのではなくて、もっと柔軟に有効に活用してもらおうということが、その施設を100%を使い切るということになるというふうに思います。これからの時代はそういう発想をしないと、多分お金のやりくりができなくなってしまうというふうに思いますので、何分、市役所というのは、結構、頭が固く考えがちなのですけども、そこをなるべく柔軟に考えて、皆さんがなんでこれこういうふうに、要は木村議員でいうと、もっと学校の施設が柔軟に使えたらいいのになと思ったわけではないですか。そういう素朴な疑問を大事にしながら、しっかりと施設の活用だとか、整備をしていきたいと思っておりますので、よろしくお祈りします。ありがとうございました。

ということで、11名の学生議員の皆さん、ありがとうございました。学生議会としてはこれで終わりますけれども、過去に学生議会に出てくれた方が、それをきっかけに市政について関心を持ってきて、市のイベントにボランティアで出てくれているとか、そういったことが結構、出てきています。なので、皆さんも学生議会はこれで終わりだけでも、いろいろ調べていく中で、なんか西尾市ってこういうことをやっているんだというのを、ちょっと興味を持ったりとか、今まで以上に好きになってくれた皆さんもいたのかなというふうに思います。そういった皆さんがこれから学業も大事なのですけれども、まちに出て、例えばイベントの手伝いをするとか、ごみ拾いをするとか、多分、西尾市のために貢献できることはたくさんあるというふうに思います。そういった市民が増えることが、西尾市が良くなることにつながりますし、西尾市が盛り上がっていくことにつながりますので、我々の仕事というのは、ルールを作ることがメインの仕事になります。だから、市民の皆さんがプレイヤーとして活躍しやすいような環境を作ることが僕らの仕事で、あとはそういった市民が1人でも増えるように、背中を押していけるようなこともやっていきたいと思っておりますので、皆さんと一緒にこれからの西尾市をしっかりと盛り上げていければいいなと思っておりますので、よろしくお祈り申し上げまして、全体の総評といいますか、お礼の挨拶に代えさせていただきます。皆さん、どうもありがとうございました。

広報広聴課長／牧原理恵子

以上をもちまして、西尾市学生議会を終了いたします。

皆様、大変お疲れ様でした。

閉会